

歴史的資産及び地域の景観づくりに対する支援について（専門家派遣制度のスキーム）

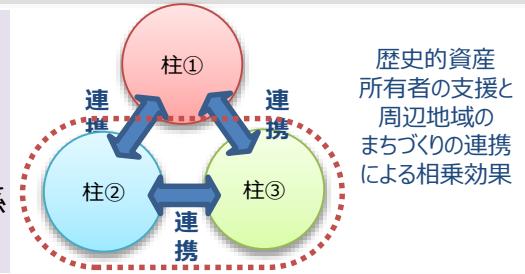
1 制度の概要

地域の歴史的資産を活かした景観づくりを進めるためには、歴史的資産の維持・保全や活用についての相談に対応する体制が必要である。

また、地域住民も含め、歴史的資産の価値の共有や地域の将来像の構築等への支援が必要である。

これらの相談や支援に対応するため、歴史的資産の保全や活用についての知識・技術を備えた人材や、まちづくりに伴走できる専門家等の幅広いネットワークの元に、地域の景観づくりを進めることが望ましい。

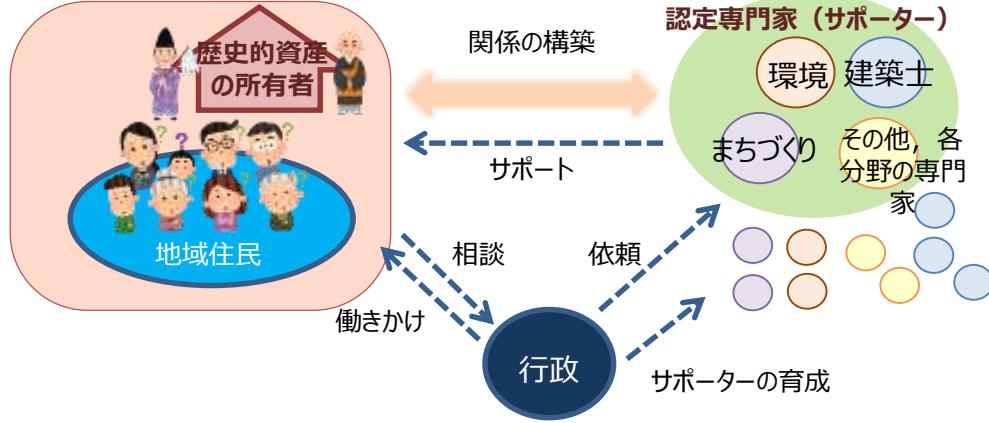
そのため、歴史的資産の維持・保全や活用の相談、調査や、地域でその価値を広める活動等を通じて、歴史的資産の所有者や地域住民と専門家等が信頼関係を構築し、歴史的資産の所有者や地域住民が抱える問題に対応できる体制の整備を目指す。



制度スキームのイメージ

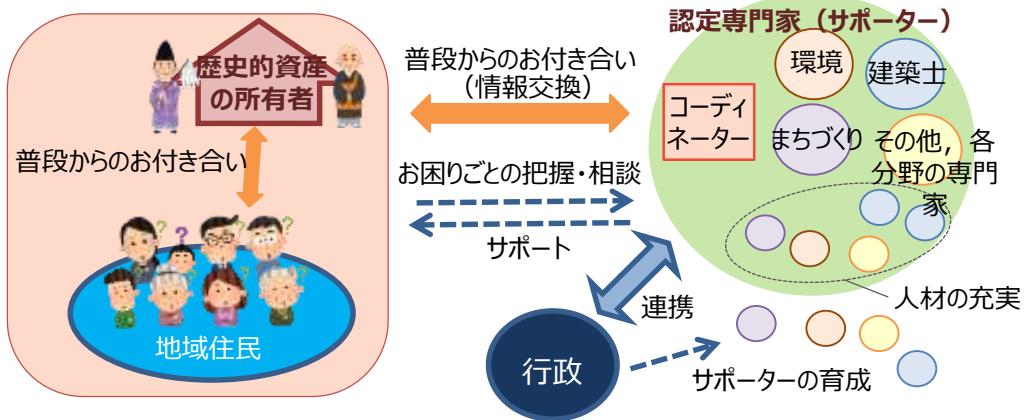
パターン1

- ① サポーター養成が進んでいる状態
- ② サポーターが確保されている状態



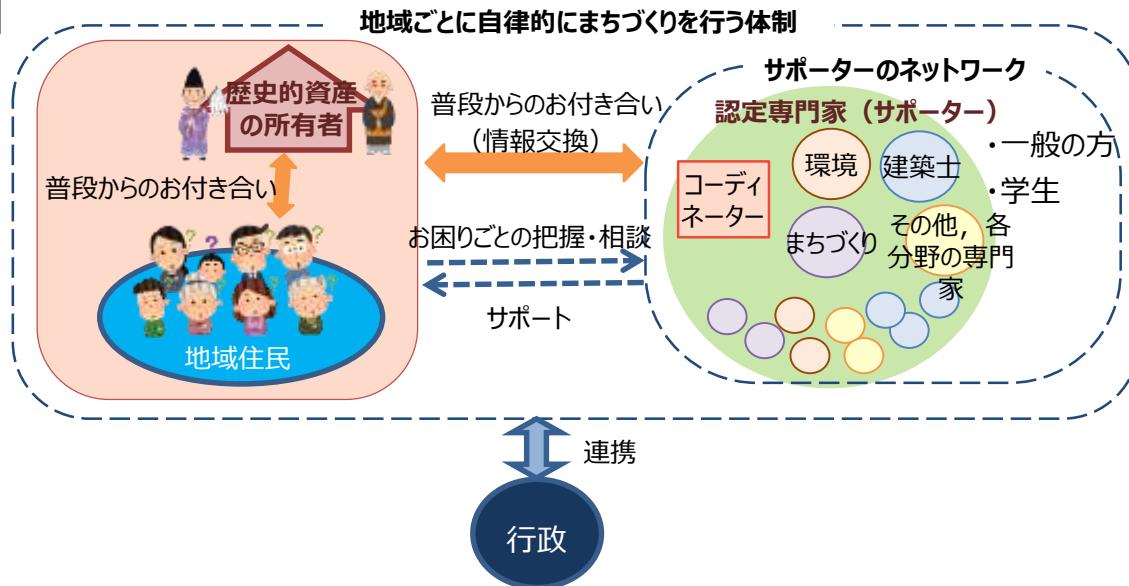
パターン2

- ① サポーター養成が進んでいる状態
- ② サポーターが確保されている状態
- ③ マネジメント・運営の体制がある状態



パターン3

- ① サポーターが確保されている状態
- ② マネジメント・運営の体制がある状態
- ③ 専門家ネットワークが構築されている状態



歴史的資産の所有者・地域が抱える課題と専門家とのマッチングのイメージ

歴史的資産の所有者・地域が抱える課題	具体的な支援のイメージ	専門家等					
		建築設計・工務店・職人	造園家・樹木医	事業・経営コンサル	まちづくりコーディネーター・エリアマネージャー	京都市	有識者・研究者 (建築・歴史・環境等)
歴史的資産の所有者	・ 建物や門・塀の修復がしたい	●				●	●
	・ 庭・樹木の管理に困っている		●			●	●
	・ 敷地内で事業をしたいが、具体的にどうにしたらよいか	●		●	●		●
周辺の地域	事業者 開発にあたり配慮するべきことがわからない					●	
	地域住民 景観まちづくり協議会等の取組をサポートしてほしい					●	●

2 実現に向けて検討すべき課題

担い手の養成

担い手となる専門家には、建築・まちづくり・経営等の個々の専門性に加え、歴史的資産や地域の歴史・文化に関する知識と理解が必要とされる。

- ① 各分野における高い専門性を備えた人材の確保（パターン1・2・3）
- ② 歴史的資産や地域の歴史・文化に関する知識を持った人材の養成（パターン1・2）

⇒「京都市文化財マネージャー(建造物)」制度※の活用が想定される

※「京都市文化財マネージャー(建造物)」とは
 歴史的建造物を保存・活用し、後世に伝えるために活動する専門的知識を有する人材。
 市、景観・まちづくりセンター、NPO法人古材文化の会が事務局となり、平成21年1月より歴史的建造物の保存・活用とそれを生かしたまちづくりに関する「京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)」を開催している。この全講座の受講生のうち、希望者を「京都市文化財マネージャー(建造物)」として市が登録している。

運営体制

① 適切な専門家を派遣できるマネジメント・運営の体制（パターン2・3）

歴史的資産の所有者・地域のニーズに応じた適切な専門家を派遣することが必要。また、地域住民・歴史的資産所有者・専門家が普段から付き合いをもち、気軽に相談できる体制の構築が必要。

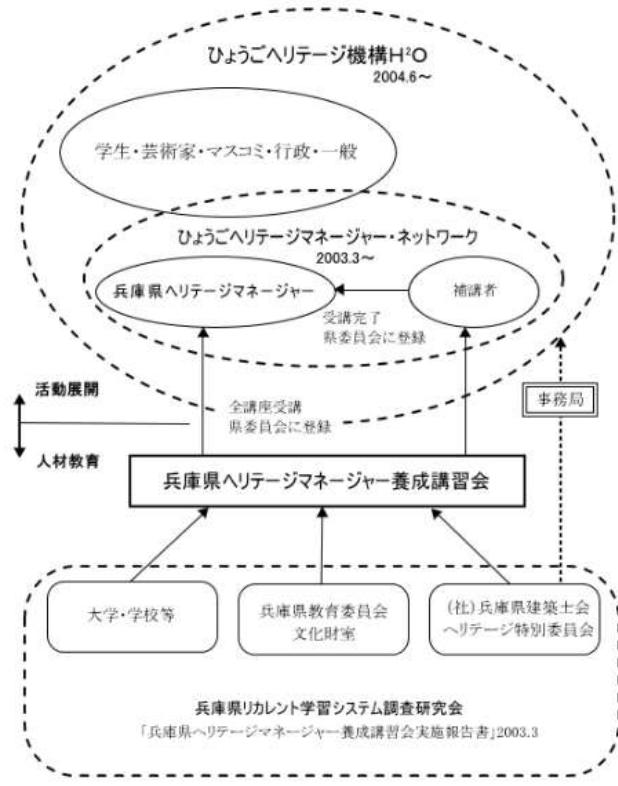
② 専門家同士をつなぐネットワークの構築（パターン3）

課題解決のために、複数の専門家がそれぞれの専門性を活かしつつ、互いに連携をとって取り組むことが必要。また、地域ごとの取組をフィードバックし、他地域での取組に活かしていくために専門家同士のネットワーク作りが必要。

参考事例1（ひょうごヘリテージ機構H²O）

兵庫県ヘリテージマネージャーを中心に、歴史的・文化的建築物等の保存、活用を目指して様々な活動を行っている。

- 1 歴史文化遺産を発掘する活動
- 2 歴史文化遺産を活用し、まちづくりに活かす活動
- 3 ヘリテージマネージャーのスキルアップを図る活動
- 4 (社)兵庫県建築士会から協力要請を受けた活動
- 5 地区活動情報の共有と、各地区への情報発信
- 6 その他本ネットワークの目的を達成するために必要な活動



<「ひょうごヘリテージ機構H²O」と呼ぶ意味>

- 1 「垣根」を取り払い、ヘリテージマネージャーだけのネットワークから脱皮し、それ以外の人たちとのネットワーク構築に向けて踏み出す。
- 2 「多様性、重層性」の獲得。建築士だけでなく、行政関係者、アーティスト、郷土史家、学生、一般の人たちが加わることで、総合力をアップさせる。

(出典・参考) ひょうごヘリテージ機構webページ

■ ヘリテージマネージャーの活動等

ひょうごヘリテージ機構H²Oは、地域に根差して現場で活躍する地区活動グループと、中間支援を中心に考えるグループよりなる。

ヘリテージマネージャーの活動は、個別の歴史的建造物の文化財登録調査、修理事業から、ファンドの組成、町並アートフェスティバルや定期市、また、任意のグループ活動からNPO法人や社会的企業まで多種多様な活動内容・組織となっている。

(出典・参考) 月刊 文化財 平成28年5月号

参考事例2（NPO法人古材文化の会）

■ 伝統建築保存・活用マネージャー

京都市文化財マネージャー養成講座修了者で希望する者は、古材文化の会の「伝統建築保存・活用マネージャー」に登録し、講座で学んだことを活かして、歴史的建造物の調査や保存・活用に向けた活動など、習得した実技を実践的な場で発揮している。

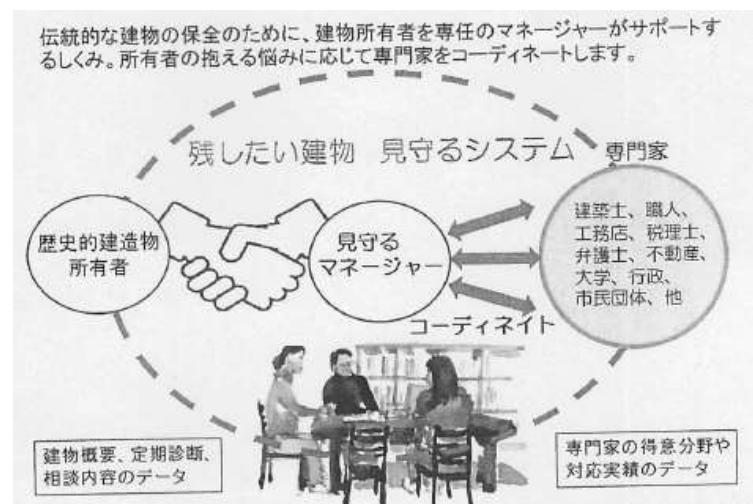
古材文化の会は、登録された「伝統建築保存・活用マネージャー」を対象に、スキルアップと活動支援を目的として「伝統建築保存・活用マネージャー上級講座」を開催し、登録文化財の調査や伝統建築の保存・活用を自立的に遂行できる専門的な知識と能力を持った人材の養成を行っている。

■ 「残したい建物を見守るシステム(仮称)」

「残したい建物を見守るシステム(仮称)」は、歴史的建造物の保全・活用を専門家と所有者が連携して行う仕組みである。NPO古材文化の会が、京都市文化財マネージャー養成講座修了者等の人材を活用し、歴史的建造物を社会的に継承するために提唱している。建物ごとに複数の見守るマネージャーを配置し、所有者と相談しながら、所有者が抱える悩みに応じた専門家をコーディネートし、保存・活用の課題に取り組んでいる。専門家としては、建築士、職人、工務店、税理士等の多様な人材が想定されている。

平成26年4月から試行されており、平成28年現在6件の建物で試行運営している。

試行運営している長谷川家住宅(国登録文化財)では、平成24年に保存修理を終え、財団法人長谷川歴史・文化・交流の家(平成27年4月設立)のサポート活動として、長谷川家住宅におけるシンポジウムや長谷川家住宅を含むバスツアーのサポート活動などを行っている。



(出典・参考) 月刊 文化財 平成28年5月号, NPO法人古材文化の会webページ